

G空間EXPO2012開催説明会のご案内

昨年開催されました、G空間EXPOは、多くの方々に来場いただき活気あるイベントとして注目されました。来年は、G空間EXPO2012としてビジネス・一般を中心に開催いたします。

日常生活や経済活動に欠かせない位置と時間の情報“いつ・どこ情報”は「地理空間情報(G空間情報)」といい、我が国のもっとも重要な社会基盤のひとつとして位置づけられ、その利用の可能性と領域の広がり強い期待が寄せられています。是非この機会にG空間社会に関心がある企業・団体の方々にご参加をお願いいたします。

主催 G空間EXPO実行委員会・展示会等ワーキングチーム

日時 2011年12月7日(水) 午後3時～4時30分

場所 東京都千代田区大手町1-3-2

経団連会館 ダイヤモンドルーム

地図 <http://www.keidanren-kaikan.jp/map/html>

参加費 無料

定員 200名

○ 事前申込をお願いいたします。(別紙申込書)

ご連絡は、FAX 03-3816-6870 又はメール g-expo@isurvey.jp をお願いいたします。

【プログラム】

1 挨拶

国土交通省 国土政策局 国土情報課長 神山 修

2 G空間EXPO2012の3つのテーマに基づく講演

① 「新マーケット」の開拓、「新技術、新サービス」の創造

「G空間社会における新たなビジネスの可能性」(仮題)

東京大学 空間情報学科研究センター教授 柴崎亮介

② 「宇宙技術」の利用

「みちびきによる民間利用実証について」

利用実証プロジェクト プロジェクトリーダー

(財)衛星測位利用推進センター利用推進本部 副本部長 松岡 繁

③ 「安全安心」への貢献

「東日本大震災における国の対応」(仮題)

国土交通省 国土地理院 地理空間情報政策調整官 坂部真一

3 G空間EXPO2012概要

展示概要・講演会・シンポジウム・セミナー・昨年のG空間EXPO他

G空間EXPO幹事

(社)日本測量協会 副会長 小野邦彦

(第2面)

G空間EXPO

来年6月に横浜で

新たな可能性創出の場に

地理空間情報(G空間情報)をめぐる最先端技術や今後の活用拡大を探索イベント「G空間EXPO2012」が、来年6月にパシフィコ横浜(横浜市西区)で開催される。国土交通省や日本測量協会、日本地理学会ら産業官の48機関・団体による実行委員会(事務局・日本測量協会)が7日、

実施概要を発表した。G空間情報は、多機能携帯電話(スマートフォン)の急速な普及を背景に活用の幅が広がっているほか、東日本大震災では被害状況の把握や復旧において重要な役割を果たすことがあらためて浮き彫りになっている。EXPOでは、海外の有識者も招く予定で、新たな技術・サービスが生まれる機会となりそうだ。同イベントは、地理空間情報高度活用社会(G空間社会)の実現へつなげる目的で昨年9月に初めて実施された。今回は、第2弾として来年6月21〜23日に開催し、関係者間や技術の交流促進につなげる。

入場は無料で、G空間関連産業のビジネス層を中心に、一般からも広く参加を募る。展示会の出



修国土政策局国土情報課長が、「EXPO2012」は、G空間の技術・サービスが一同に展示される。既存サービスの高度化や発展、新たな産業サービスの創出につながることを期待している。と述べ、積極的な出展を促した。写真。

続いて、柴崎亮介東大空間情報学研究所センター教授が最新動向について講演。「スマートフォン」の急速な普及と拡大で、位置情報サービスの自由度が飛躍的に上がり、非常に大きなビジネスチャンスが広がる」と述べる。とともに、準天頂衛星「みちびき」によりサービスレベルが向上し、新たなサービスが広がる可能性に言及した。アジアを見据えたビジネス展開の重要性も指摘した。安全安心の面からは、国土地理院の坂部真一地理空間情報政策調整官が、東日本大震災での活用事例などに触れ、「G空間情報が貢献できる余地はたくさんある。パートナーを見つげるためのEXPOにしてみたい」と語った。

利用▽安全安心への貢献の3分野を柱に展示や関連イベントを行う。実施概要の説明会では、実行委員会の幹事を務める国土交通省の神山

参加を募る。展示会の出

来年6月横浜で開催

ビジネスに重点、海外も積極的に

地理空間情報の最先端の技術、サービスが集結する「G空間EXPO2012」暮らしをささぐえ、国土をまもり、未来を創る(主催・G空間EXPO実行委員会)が来年6月21日(木)・23日(土)の3日間、横浜市で開催されることが決まった。

今回の開催は、ビジネスに重点を置き、展示会場内に製品・サービスをプレゼンテーションや商談が行える場を設けるほか、海外に対しても積極

的にイベント招致活動を行い、アメリカやヨーロッパ、東南アジア各国の国際機関・関係国要人の招聘、国際シンポジウム・ワークショップの開催、同時期開催の国際会議との連携、さらには参加者同士が交流・意見交換できる場も提供する。

展示会場では、「新マップ」の開設、新技術、新サービスの創造、「宇宙技術の利用」「安全安心への貢献」の3つのテーマを基にしたソリューション構成で、基礎技術、応

用技術、機器システム、ソフトウェア、サービス等々が出展される予定。出展申込み期限は来年1月31日となっている。

7日、経団連館で行われた開催説明会では、神山修国土交通省国土政策局長、国土情報課長、写真IIが挨拶に立ち、「G空間EXPO2012は、昨年9月の開催に次ぐ第2弾です。G空間情報、いわゆる地理空間情報は、日常生活や経済社会に不可欠な位置と時間の情報、



最近重要な社会基盤として大きく注目を集めているところです。特に本年3月に発生した東日本大震災では宇宙、空、陸、海の各プラットフォームから様々なG空間情報収集され、インターネットで公開され、また、企業やボランティアを含めた共同チーム等によりこれらの情報がマップシユアアップされ発信されるなど、G空間情報が被災状況の迅速な把握や復旧に多大な貢献を果たしてきました。

国においても、地理空間情報活用推進基本法が07年に施行されて以降様々な施策を展開、特に高度な測位の基礎となる準天頂衛星システムに関する、昨年第一号機「みちびき」が打ち上げられ、10年代後半を目途に4機体制を整備、将来的に7機体制を目指すことになっています。このようなG空間関連予算をみると、第3次補正の84億円が成立、12年度概算では511億円を要求しており、体制の整備や利用分野が飛躍的に拡大されることが期待されている状況です。

今回のG空間EXPO2012では関係する様々な分野の技術、製品、サービスが一箇に集結展示されることも、シンポジウムや体験イベント

などを通して、ヒトやモノの交流が創出され、裾野が広がると期待されています。サービスの高度化や創意工夫の掘り起こしに資するものと確信しています」と述べた。

引き続き、柴崎亮介東京大学空間情報科学科研究センター教授、松岡繁樹(利用推進本部副本部長、坂部真一国土交通省国土地理院地理空間情報政策調整官)による講演、小野邦彦日本測量協会副会長からG空間EXPO2012の概要説明があった。

出展申込み及びお問い合わせは、G空間EXPO実行委員会・展示会等ワーキングチーム事務局(日本測量協会内、TEL:03-5606-4000)。

建設通信新聞

(第2面)

産・学・官が一堂に

G空間 EXPO 横浜で6月開催

G空間社会(地理空間情報
高度活用社会)の理解促進と
関連産業の振興に向け、産学



官の連携による「G空間EX
PO2012」が2012年
6月に横浜市で開催される。同
実行委員会が主催。東京都内
で7日に開かれた同EXPO
説明会で、東大空間情報学科
研究センターの柴崎亮介教授
がG空間の現状や今後の発展
性や、関係者が横断的に取り
組む必要性を強調した。写

真。

柴崎教授はG空間情報が、
東日本大震災の際に被災状況
の把握や復旧に大きく貢献し
たことを挙げ、「さらに対策
準備が必要であり、果たす役
割は加速していくだろう」と
の考えを示した。この一年間
で急速に普及した多機能携帯
電話(スマートフォン)は
一位置情報サービスの自由度
が上がった」として、サービ
スレベルが飛躍的に向上した
ことを指摘した。

みちびきが打ち上げられ、宇
宙技術の利用に向けた実証
や、各国の全地球的な測位シ
ステム(GNSS)に対応し
たシステムの整備が進められ
ている。

位置と時間の情報である
「いつ・どこ情報」は、重要
な社会システム基盤の一つと
位置付けられ、その利用の可
能性と領域の広がりには大き
な期待が寄せられている。

「EXPO2012」は、
来年6月21日から23日までの
3日間、横浜市のパシフィコ
横浜で「暮らしを支え、国土
を守り、未来を創る」をテー
マに開く。

講演、シンポジウム・セミ
ナー、機器やソフトウェアな
どの展示、体験できるイベン
トを企画し、新マーケットの
開拓など、関連産業の発展を
促すのが狙い。参加は無料。
来場者数は延べ2万―3万人
を見込む。

出展の申し込みは、1月31
日まで同事務局の日本測量協
会(電話03-5684-33
56)で受け付けている。

10年9月には、準天頂衛星